

■ 学校の共通目標

| | | | | | | |
|------|----|---|------|--|------|--|
| 授業作り | 重点 | ・主体的・対話的で深い学びの実現のために、「主体的に追究する問い」、「見方・考え方を生かしたり働かせたりする学習活動」、「学びを確かにする評価」の3点の充実を図ることで授業改善を進める。 | 中間評価 | | 最終評価 | |
| | | ・タブレット端末を活用した深い学びの実現を目指し、各教科等の特質に応じて児童がICTを積極的に活用する機会を設定し、情報活用能力を育む。 | | | | |
| 環境作り | | | | | | |

■ 学年の取組内容

| 学年 | 教科 | 学習状況の分析 (10月) | 課題 (10月) | 改善のための取組 (10月) | 最終評価 (2月) | |
|----|----|---|---|---|-------------------|-----------|
| 1 | 国語 | | | | | |
| | 算数 | | | | | |
| 学年 | 教科 | 学習状況の分析 (4月) | 課題 (4月) | 改善のための取組 (4月) | 中間評価・追加する取組 (10月) | 最終評価 (2月) |
| 2 | 国語 | <p>学 読む力は、おおむね満足できる状況である。</p> <p>学 漢字の読みや正しい語句を用いて、つながりのある文章を書くことに苦手意識をもつ児童がいる。</p> <p>学 「読むこと」については、登場人物の気持ちを読み取って、意欲的に音読する児童が多い。</p> | <p>「」や句読点などの基本的な使い方に課題が見られる。</p> <p>平仮名や片仮名、既習の漢字の習熟に課題があり、言語についての知識・理解、技能を定着させていく必要がある。</p> <p>文と文を関連付けて読み取る力に課題がある。</p> | <p>言葉の意味だけでなく、つながり方や文章の構成について指導を工夫する。</p> <p>朝学習や授業の中でもデジタルドリルの学習を取り入れ、新出漢字や言語を確実に定着させる。</p> <p>「話すこと」、「書くこと」を中心に自分の考えをもたせ、発表する場を多く設けていく。また、自分の考えを話し合う活動の充実を図る。</p> | | |
| | 算数 | <p>学 2位数を含む加法・減法については、全ての児童がおおむね理解できている。繰り上がり・繰り下がりのある計算について理解が十分でない児童がいる。</p> <p>学 課題に対して集中して取り組む態度は育っているが、自分の考えを図や式を使って説明する力には個人差がある。</p> | <p>繰り上がり、繰り下がりの加法、減法の筆算についての習熟に課題がある。</p> <p>自分の考えを図や式を使って表現する力に課題が見られる。</p> | <p>授業の始めの時間や家庭学習の機会を活用し、「東京ベーシック・ドリル」やデジタルドリルを用いて既習事項の復習を行い、定着を図る。</p> <p>互いの考えのよさに触れさせる。また、タブレット端末を活用し、発表し合う活動を取り入れる。</p> | | |
| 3 | 国語 | <p>調 話す・聞く能力は、区平均より6ポイント近く上回って、自分の考えを積極的に表現する児童の割合が高い。一方で、書く能力は区学力定着度調査の結果、区平均より0.2ポイント下回っている</p> <p>学 書く能力については、書こうという意欲のある児童は多いものの、目的に応じた文章の構成を考えたり、言葉を選んだりすることを苦手とする児童がいる。</p> | <p>書く能力、特に、内容のまとまりで段落を作ったり、目的に合わせて文章構成を考えたりすることに課題がある。</p> <p>習った漢字や言葉を、学習や日常生活の中で使ったり、ていねいに書いたりすることについて課題がみられる。</p> | <p>書くことについて、例文の提示を通して、目的に応じた書き方や言い回しを確認し、表現方法を身に付けられるようにする。</p> <p>モジュールの時間の学習やタブレット端末等を活用した毎日の家庭学習を通して、基礎基本の定着を図る。</p> | | |
| | 算数 | <p>調 数量や図形についての知識理解は目標値と同程度、思考・判断・表現は目標値を5ポイント程度上回っている。</p> <p>学 長さやかさなど、単位に対する量の感覚や、かけ算九九の定着がまだ十分に身に付いていない児童がいる。</p> | <p>自分の考えを図や式を使って表現する力について、個人差がやや大きく見られる。</p> <p>かけ算の定着が不十分であったり、九九の計算が遅かったりする児童が多い。</p> | <p>図や式を用いながら、算数の言葉を使い説明できるよう指導する。また、集団解決で友達のよい考えをノートにまとめる時間をとることで、多様な考え方ができるようにする。</p> <p>家庭学習で「東京ベーシック・ドリル」やデジタルドリルを繰り返すことで知識の定着を図る。</p> | | |

| | | | | | |
|---|----|--|--|---|--|
| 4 | 国語 | <p>調 思考することや話し合うことには意欲的な児童が多い。発言も多く、意見をつなぐこともできる。しかし、「書く」という活動に対しては消極的で、昨年度の学力調査では、「書くこと」の問題において8ポイント近く区の平均を下回っている。</p> <p>学 読み取りでは、叙述から様子や登場人物の気持ちを読み取るというよりは、初読のイメージを基に物語にせまっているというところが見られる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 「書く」力が十分でなく、他教科の学習の場においても自分の考えを上手に表現できない児童がいる。(まとめや自分の考えなど) 読み取りの学習では、気に留めた言葉や文章に立ち止まる習慣が少ないと思われる。 | <ul style="list-style-type: none"> 1単位時間の学習内に、なるべく書いて表現するまとめの活動を入れていく。漢字の学習では、毎回自作の文を考えるようにする。少しずつ「書く」活動の幅を広げていく。 叙述を丁寧に読む練習を行っていく。「気に留めた表現」なども全体場で取り上げ、「読み方」の共有化を図っていく。 | |
| | 算数 | <p>調 問題をよく読まず、思い込みで取り組んだ結果、正対した答えにたどり着かないことがある。昨年度の学力調査では、大きい数の計算で区の平均を7ポイント近く下回っている。</p> <p>学 問題との出会いを楽しみ、問題を解くことに喜びを感じている児童が多い。しかしながら理解については、算数におけるルールや仕組みを論理的というよりは、「型」で覚えている印象もある。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 全体的に応用力が低く、「型」で覚えている児童は特にその傾向が見られる。主体的に問題解決的な学習に取り組めるようにする必要がある。 解答を急ぎ、問題への理解が十分ではない児童がいる。 | <ul style="list-style-type: none"> 「なぜそうなるのか」ということに疑問を抱かせ、その仕組みを説明できるような活動を取り入れていく。思考のための十分な時間を確保する。対話活動を盛んに取り入れ、協同的に解決する経験を重ねていく。(思考の深化、意欲向上につなげる) 問題を読むときは、「分かっていること」や「聞かれていること」を改めて確認する作業を繰り返し行っていく。 | |
| 5 | 国語 | <p>調 読み取りでは、文章を丁寧に読み取ることが、区の平均点よりも2.1ポイント低かった。叙述をもとに自分の考えを表現することができる児童もいるが、苦手な児童もいる。</p> <p>学 書くことでは、区の平均点よりも1.1ポイント低かった。考えを表現するだけでなく、条件のもとで文章が書け、言語活動を取り入れ、相手に発信できる児童もいるが、苦手な児童もいる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 文章を読み取ることに個人差がある。構成や叙述にそった読み取りに課題が見られる。漢字の音読み、訓読みや書き取りに課題がある。 「話すこと聞くこと」について相手を意識して話したり自分の考えと比べて聞いたり発信したりすることに課題が見られる。 | <ul style="list-style-type: none"> 家庭学習と合わせて漢字練習等に取り組み、文章を読むことや漢字、言葉に慣れるようにする。また、文章の読み取りは丁寧に言いサイドラインを引き、根拠をもって考えられるように視覚化する。 ペア、グループや学級全体で自分の考えや感想を発表し合ったり、書いたりする機会を多く設定し、学び合うことで考えが深まることを実感できるようにする。 | |
| | 算数 | <p>調 既習事項を生かして問題解決に取り組む、自分の考えを表現できる児童が多い。図形に関しては、区の平均よりも9ポイント以上低い。</p> <p>学 課題に対して集中して取り組み、多様な考えを出そうとする児童が多い。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを分かりやすく表現したり、友達の考えに関心をもって聞き、自分の考えを深めたりすることに課題がある。 課題に対して、粘り強く取り組むことが苦手で既習事項が定着していない傾向も見られるため、前学年までの内容を身に付けさせることが課題である。 | <ul style="list-style-type: none"> 習熟度別指導のコース分けを単元毎に工夫し指導する。自分の考えを表現し交流し合う学習を習熟度に応じて行う。また、タブレット端末を活用し、自分の考えを分かりやすく表現したり、瞬時の共有できることで、友達との交流を通して考えを深めたり付け足したりできるようにする。 家庭学習や習熟の時間で「東京ベーシック・ドリル」やデジタルドリルを使い、繰り返し問題に取り組む、基礎・基本の定着を目指す | |
| 6 | 国語 | <p>調 学習に意欲的に取り組む児童が大半だが、読み取ったことをもとに自分の考えを書いたり、発表したりすることに苦手意識をもつ児童が多い。昨年度の学力調査では段落の意味を理解し文章を書く問題の正答率が区平均より1ポイント以上低かった。</p> <p>学 学力の差、学習意欲の差に二極化の傾向がある。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 漢字の読みや書きに課題のある児童が多い。 友達の考えと比べながら発言したり聞いたりすることに課題がある。積極的に意見を言える児童は、聞くことによる考えの深まりを感じられるようにするなど、児童が自分の課題を意識して学習できるようにする必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 日頃のノート指導の際に漢字を積極的に使うよう指導する。 学級全体で自分の考えをまとめたり、意見を交流し合ったりする時間を適切に設定し、皆で意見を出し合うことで考えがより深まっていくことを実感できるようにする。また、児童の実態に応じて学習グループの構成を工夫したり、個別指導を行ったりする。 | |
| | 算数 | <p>調 学力の差、学習意欲の差に二極化の傾向がある。昨年度の学力調査では正答率5割未満が22%、反対に正答率9割以上が25%であった。</p> <p>学 課題に対して集中して取り組み、多様な考えを出そうとする意欲も高いが、図や式を使っていくことに課題のある児童もいる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 前年度までに学習したことを利用して考えたり、解決したりする内容が増えてきたため、基礎基本が十分に身に付いていない児童の中には、算数に苦手意識を感じている。 自分の考えを分かりやすく表現したり、式や図を使って、自分の考えを深めたりできるように支援をしていく必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 「東京ベーシック・ドリル」やデジタルドリルを家庭学習も含めて活用し、児童が意欲的に、自分に合った形で基礎・基本を身に付けられるようにする。 適切に習熟度別指導のクラス分けを行い、指導する。自分の考えを表現し交流し合う学習を習熟度に応じて行う。 | |

| | | | | | |
|----|--|---|---|--|--|
| 音楽 | <p>学曲想を感じ取ったり、自ら表現したりすることに意欲的に取り組むことができる児童が多い。</p> <p>学感じ取ったことを音楽の要素と結び付けて考えたり、思いを表現出来る技能を身に付けたりしている児童は限られている。</p> | <p>・感じたことを要素や仕組みと結び付けて考えたり、自分の表現に生かしたりするための基礎的、基本的な技能の習得に課題がある。</p> | <p>・鑑賞の学習を通して要素や仕組みを理解し、領域を超えて鑑賞で得た事を歌唱や器楽で活用し、表現出来るようにしていく。更に、思いを表現できるようにするため、場に応じた個別グループ学習等を活用し、技能面の向上を図る。</p> | | |
| 図工 | <p>学各学年、友達の活動や作品に興味をもち、よいところを感じることができる。</p> <p>学意欲的に学習に取り組んでいるが、自分の表したいことを考えることが苦手な児童がいる。</p> <p>学表し方の工夫が十分でない児童がいる。</p> | <p>・自分の表したいことを考える発想・構想力を育てることが課題である。</p> <p>・児童がいろいろ試しながら、自分の表し方を考え、つくりかえて表す力を培っていく必要がある。</p> | <p>・児童の発想が広がるように、題材のテーマ設定や扱う材料を工夫する。導入や活動中に、発想のポイントを示し、友達のアイデアや参考作品なども適宜見せていく。</p> <p>・児童が自分の思いに合わせて材料・用具・表し方を考える場の設定を工夫し、つくりながら試したり、つくりかえたりできるようにする。</p> | | |

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト、デジタルドリル等から見える学習の状況